

## 平成30年度事業計画

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

### 1. 基本方針

平成30年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から71年目を迎えます。

新年度も当協会は、引き続き大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、古くから活動を行う大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館を、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽文化の普及・振興に貢献するとともに、会館施設の一部を一般に賃貸する収益事業を通じて、交響楽団運営等の公益事業の費用に充当していきたいと考えております。

これらの事業推進にあたりましては、引き続き、財政的に安定した協会運営を目指して公演数、公演入場者数、各種会員数、会館利用者数等の更なる増加に向けた取組みを優先課題として取り組むことといたします。

なお、弊楽団は、平成30年4月より新たに尾高忠明新音楽監督を迎え、定期演奏会やベートーヴェン交響曲全曲演奏会等の自主公演を通じて、アンサンブル能力の強化と、緻密さに裏付けられた真に力強いサウンド作りを目指してまいります。

また、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等に努めてまいります。

### 2. 事業基盤の維持・拡大に向けた平成30年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の維持・拡大を進めてまいります。

#### (1) 自立に向けた収益基盤の充実

平成30年度は、新たな自主公演としてベートーヴェン交響曲全曲演奏会を開催するとともに、1年振りとなる東京定期演奏会を開催いたします。そのため、自主公演は平成29年度計画の34公演から40公演に増加する見込みです。また、文化庁学

校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、年間60公演を見込み、合計の年間公演数は、100公演を計画しております。

<b>1. 自 主 公 演 ( 40公演 )</b>		
公 演 名	会 場	公 演 数
定期演奏会	フェスティバルホール	20
東京定期演奏会	サントリーホール	1
ベートーヴェン交響曲全曲演奏会	フェスティバルホール	6
マチネ・シンフォニー Vol.19・20	ザ・シンフォニーホール	2
ソワレ・シンフォニー Vol.11・12	ザ・シンフォニーホール	2
親子のためのオーケストラ体験教室	大阪フィルハーモニー会館	4
神戸特別演奏会	神戸国際会館こくさいホール	1
ドラゴンクエスト・コンサート	フェスティバルホール	1
3大交響曲の夕べ	フェスティバルホール	1
京都特別演奏会	京都コンサートホール	1
新春名曲コンサート	フェスティバルホール	1
<b>2. 依 頼 公 演 ( 60公演 )</b>		
企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演		58公演
大阪クラシック(有料・オーケストラ公演)		2公演

定期演奏会は、オーケストラ演奏の芸術性を高め、コアなクラシックファンだけでなく、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の個性と実力をアピールするとともに、目指す音楽的方向性を示すシリーズとなっています。平成29年度は創立70周年を記念して、華やかな共演者とダイナミックで色彩感豊かな作品が並んでいましたが、平成30年度は、尾高新音楽監督の指導の下、古典派から邦人作品を含む現代曲まで、より幅広い作品をラインナップしております。これらの作品を取り組む中で、弊楽団としましてはアンサンブル能力の強化と、緻密さに裏付けられた真に力強いサウンド作りを目指す1年にしてまいります。共演者は、若手から巨匠まで国内外の様々なタイプの指揮者、独奏者を招いておりますので、聴衆の皆さまにも音楽的な奥行き・広がりを感じていただける貴重な機会が提供できるのではないかと考えております。中でも4月のブルックナー／交響曲第8番は弊楽団にとって創立名誉指揮者・朝比奈隆の時代から拘りを持って取り組んできた作品ですので、新音楽監督の就任披露となる演奏会で取り上げるにより、これまでとは違う新たな「大フィル」の魅力をスタートから強く聴衆の皆さまにアピールする機会にしたいと考えています。また1月のエルガー

は尾高新音楽監督の得意とする作曲家ですが、これもブルックナーで育んだ豊かで強靱な響きが生かされる作品ですので、弊楽団が芸術的な高みを目指していく上で貴重な演奏体験になると同時に、多くのクラシックファンに新たな「大フィル」を強く印象付ける演奏会にしたいと考えています。

1年振りに開催を予定している東京定期演奏会では、幅広いクラシックファン向けに、新たな「尾高新音楽監督×大フィル」の実力をアピールしてまいります。

自主演奏会では、新たに「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」を5回シリーズで開催いたします。同演奏会は、弊楽団の創立名誉指揮者・朝比奈隆氏や、桂冠指揮者・大植英次氏も行っておりますが、「原点であり頂点」ともいえるベートーヴェンの全交響曲を、就任1年目に演奏することは、弊楽団が尾高新音楽監督の指導の下、いかに本気で進化しようとしているかを示す重要なメッセージになると考えております。そのため本企画は、今年度のメイン・プロジェクトと位置付け、今後の基本的な演奏スタイルとオーケストラ・サウンドを、どのように再構築し進化させていくかを確認していく、音楽的には非常に重要なシリーズになると考えております。一方で、日本で人気のあるベートーヴェンの交響曲全曲を7ヶ月という短期間に集中して採り上げることで、コアなファンのみならず、これまで演奏会に足を運ばなかった幅広い層の方がクラシック音楽の世界に親しんで頂くきっかけを創り、更には将来のクラシックファン層の拡大に繋げていくことを、もう一つの大きな目標としております。

また、「名曲シリーズ」として再編した「マチネ・シンフォニー」「ソワレ・シンフォニー」「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」につきましては、引き続き普段クラシック音楽に敷居の高さを感じている、あるいは、あまり興味お持ちでない方に対しても、判りやすく、親しみやすく、魅力的なコンサートとして訴求していきたいと考えております。なお、平成29年度に引き続き開催を予定しております、ゲーム音楽を採り上げた「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましては、クラシックファンのみならず幅広い層に訴求し、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしていきたいと考えております。

以上のような演奏会の充実に加え、一般向けの販売促進、コアファン層拡大を企図した各種施策についても実施いたします。

平成30年度は、定期演奏会1日目にご来場いただいたお客さまで「2日目も聴きたくなった」という方を対象に、終演後ロビーにて翌日のA席チケットを定価の半額(3千円)で販売いたします(ただし、残席がある場合のみ、お一人1枚限り)。2日間にわたって演奏を聴いていただける熱心なファン層を通じて、弊楽団の魅力が拡散し、ご友人を含め多くの方々が演奏会場に足を運ぶきっかけになればと考えております。

また、定期演奏会の3階席(学生席限定として使用中)限定で、一般向けに30名以上の団体を対象として3千円の団体割引チケット(定価の4割引)を販売いたします。

これまで法人正会員の20名以上の団体に限定して2,500円で発売しておりましたが、一般向けにも対象を広げることで、大口顧客の開拓と3階席の有効活用に繋げていきたいと考えております。

なお、各種施策の実施に当たっては、プロボノ賛助会員の電通様のサポートもいただきながら進めております。引き続き、アンケート分析も含め外部の知見も取り入れながら、今後の各種マーケティング施策に繋げていきたいと考えております。

会費収入の増収に向けては、平成27年度より新たに設置したパトロナージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーの活動を引き続き効果的に展開するとともに、法人会員については会員会社の協力も得て組織的な対応を充実させることで、新たな会員獲得に取り組みます。また、寄付金につきましては、大口の遺贈案件等の捕捉はもちろんのこと、演奏会での寄付金募集のチラシ折り込み等を通じた地道な努力も継続してまいります。

こうした活動を通じ、平成30年度は事業活動の一層の充実、収支の安定を図りたいと考えております。

## (2)オーケストラの体制整備

平成30年4月より尾高忠明マエストロに3代目音楽監督にご就任頂き、公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括して頂きます。

また、一昨年度「指揮者」となった角田鋼亮マエストロには引き続き同タイトルの委嘱を継続します。

楽団員の体制については、平成30年2月末現在68名のところ、中期的目標である80名体制の整備に向けて、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、首席コンサートマスターとして田野倉雅秋氏と、首席客演コンサートマスターとして崔文洙氏との契約を継続します。また、新たにコンサートマスターとして須山暢大氏と契約します。

## (3)大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去12回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また5万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」を、今年度も9月に在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で開催すべく、大阪クラシック実行委員会において協議・調整を行っております。

「大阪クラシック」の継続開催により、大阪の新しい都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化や、大阪の都市格向上への貢献を目指します。

次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、現在、定期演奏会の開催にあたってフェスティバルホールの3階席を学生席として25歳以下の学生の方々向けに1,000円という極めて安価にて提供しております。さらに、平成30年度から「学生定期会員」制度を創設し、同会員の学生の皆さまには定期演奏会以外の自主公演の割引制度等を利用していただけるようにいたしました。また、平成29年度からは、この3階学生席をより有効に活用するため、小学生等のお子様親子と一緒に公演を聴くことができる「親子チケット」の発売も行っております。

また社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動を行っており、平成30年度についても継続実施してまいります。

### 3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600㎡)・市民スタジオ(90㎡1室、40㎡2室)を、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を通じ、地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

市民スタジオの貸室料金については、周辺の貸室環境等を精査し、出来るだけ地域の皆様に喜んでご利用頂けるよう平成28年5月に改定いたしました。この結果、スタジオの稼働率は向上しており、より一層の利用PRを行うことにより稼働率の維持・向上に努め地域への貢献に寄与したいと考えております。

なお、竣工後27年が経過した大阪フィルハーモニー会館建物については、公益法人の今後の活動基盤の健全化のため必要に応じて修繕等の検討を続けてまいります。

### 4. 平成30年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

#### (1) 外部企業・団体との連携による公演来場者の増員

平成29年度は、新たに旅行業者や企業向け福利厚生サービス提供企業等と提携し、同社が運営している会員向けサイト等で弊楽団の公演情報等の掲載を進めてまいりましたが、平成30年度も、他の外部団体も含め、更なる提携対象の拡大、内容の充

実を検討してまいります。

## (2)東京2020文化プログラムへの参加

現在、東京2020に向け、文化関係の事業実施について様々な検討が関係各所において進みつつあります。

弊楽団は平成29年度に東京2020大会の文化プログラムの一環として、大会スポンサーであるSMBCが実施する「大阪フィルハーモニー交響楽団創立70周年記念展示会 <大阪フィルと朝比奈隆>」「SMBC PRESENTS 大阪フィルハーモニー交響楽団 室内楽の愉しみ IN TOKYO」「SMBC Presents Autumn コンサート」「住友病院コンサート」「関西電力病院コンサート」に協力いたしました。

平成30年度につきましても各種文化プログラムの実施を企画・検討してまいります。

以上

平成30年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）  
（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（単位：円）

	平成30年度予算	平成29年度予算	増減
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
受取会費	225,450,000	223,100,000	2,350,000
正会員受取会費	196,650,000	194,300,000	2,350,000
賛助会員受取会費	28,800,000	28,800,000	0
事業収益	578,436,100	522,361,000	56,075,100
公演収益	288,058,000	278,001,000	10,057,000
広告料収益	41,668,100	27,982,000	13,686,100
入場料収益	215,200,000	180,230,000	34,970,000
使用料収益	16,300,000	20,240,000	▲ 3,940,000
その他事業収益	17,210,000	15,908,000	1,302,000
受取補助金等	85,000,000	84,075,000	925,000
公的補助金収入	85,000,000	84,075,000	925,000
寄附金収入	34,700,000	33,000,000	1,700,000
一般寄付金収入	34,700,000	33,000,000	1,700,000
雑収益	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000,000	1,000,000	0
経常収益計	924,586,100	863,536,000	61,050,100
<b>(2) 経常費用</b>			
<b>事業費</b>	928,673,349	893,188,907	35,484,442
役員報酬	3,039,600	3,600,100	△ 560,500
給料手当	367,457,874	371,136,650	△ 3,678,776
賞与	20,860,836	0	20,860,836
法定福利費	58,360,420	54,714,501	3,645,919
旅費交通費	67,232,238	48,340,329	18,891,909
出演費	165,031,000	176,450,000	△ 11,419,000
音楽費	8,343,000	5,103,000	3,240,000
文芸費	3,184,000	2,110,000	1,074,000
諸謝金	2,008,000	1,121,000	887,000
会場費	77,351,000	63,380,000	13,971,000
楽器運搬費	7,789,000	7,728,000	61,000
外注費	3,500,000	3,800,000	△ 300,000
宣伝費	5,814,000	6,068,000	△ 254,000
印刷製本費	17,210,000	17,288,000	△ 78,000
支払手数料	10,234,000	8,390,000	1,844,000
消耗品費	2,220,000	2,096,125	123,875
修繕費	4,071,200	1,467,800	2,603,400
賃借料	2,362,560	2,278,237	84,323
保険料	977,657	900,908	76,749
交際費	1,134,000	1,080,000	54,000
通信運搬費	3,963,840	3,873,100	90,740
光熱水費	7,104,000	7,122,500	△ 18,500
委託費	7,168,314	7,297,535	△ 129,221
減価償却費	26,669,193	26,926,568	△ 257,375
雑費	14,369,200	16,745,700	△ 2,376,500
租税公課	31,748,554	30,294,958	1,453,596
修繕引当金繰入額	4,678,000	4,678,000	0
退職給付費用	4,791,863	19,197,896	△ 14,406,033
<b>管理費</b>	7,955,457	8,328,853	▲ 373,396
役員報酬	2,026,400	1,542,900	483,500
給料手当	652,126	994,350	△ 342,224
賞与	35,164	0	35,164
法定福利費	95,580	97,499	△ 1,919
旅費交通費	480,762	345,671	135,091
通信運搬費	165,160	150,900	14,260
印刷製本費	0	0	0
支払手数料	0	0	0
消耗品費	80,000	73,875	6,125
修繕費	128,800	32,200	96,600
賃借料	98,440	88,763	9,677
保険料	24,343	45,092	△ 20,749
交際費	126,000	120,000	6,000
支払利息	400,000	950,000	△ 550,000
光熱水費	296,000	277,500	18,500
委託費	473,686	478,465	△ 4,779
減価償却費	1,835,716	1,853,432	△ 17,716
雑費	550,800	612,300	△ 61,500
租税公課	275,546	295,042	△ 19,496
修繕引当金繰入額	322,000	322,000	0
退職給付費用	▲ 111,066	48,864	△ 159,930
<b>経常費用計</b>	936,628,806	901,517,760	35,111,046
<b>当期経常増減額</b>	▲ 12,042,706	▲ 37,981,760	25,939,054
<b>2. 経常外増減の部</b>	0	0	0
<b>(1) 経常外収益</b>	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
<b>(2) 経常外費用</b>	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	0	0	0
<b>当期一般正味財産増減額</b>	▲ 12,042,706	▲ 37,981,760	25,939,054
般正味財産期首残高	417,594,950	446,999,192	▲ 29,404,242
般正味財産期末残高	405,552,244	409,017,432	▲ 3,465,188
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>	0	0	0
<b>当期指定正味財産増減額</b>	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III. 正味財産期末残高</b>	405,552,244	409,017,432	▲ 3,465,188

（注1）一般正味財産期首残高に関して、平成30年度は平成29年度決算見込み値を、平成29年度は平成28年度決算値を使用。

（注2）短期借入限度枠は300百万円とする

平成30年度 収支予算書 内訳表 (正味財産増減計算書 内訳表)  
(平成30年4月1日 ~ 平成31年3月31日)

	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
(単位:円)				
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	217,961,243	0	7,488,757	225,450,000
正会員受取会費	189,161,243	0	7,488,757	196,650,000
賛助会員受取会費	28,800,000	0	0	28,800,000
事業収益	578,436,100	0	0	578,436,100
公演料収益	288,058,000	0	0	288,058,000
広告料収益	41,668,100	0	0	41,668,100
入場料収益	215,200,000	0	0	215,200,000
使用料収益	16,300,000	0	0	16,300,000
その他事業収益	17,210,000	0	0	17,210,000
受取補助金等	85,000,000	0	0	85,000,000
公的補助金収入	85,000,000	0	0	85,000,000
寄附金収入	34,700,000	0	0	34,700,000
一般寄付金収入	34,700,000	0	0	34,700,000
雑収益	533,300	0	466,700	1,000,000
雑収益	533,300	0	466,700	1,000,000
経常収益計	916,630,643	0	7,955,457	924,586,100
(2) 経常費用				
事業費	927,192,149	1,481,200	0	928,673,349
役員報酬	3,039,600			3,039,600
給料手当	367,425,610	32,264		367,457,874
賞与	20,859,096	1,740		20,860,836
法定福利費	58,355,691	4,729		58,360,420
旅費交通費	67,225,467	6,771		67,232,238
出演費	165,031,000			165,031,000
音楽費	8,343,000			8,343,000
文芸費	3,184,000			3,184,000
感謝金	2,008,000			2,008,000
会場費	77,351,000			77,351,000
楽器運搬費	7,789,000	0		7,789,000
外注費	3,500,000			3,500,000
宣伝費	5,814,000			5,814,000
印刷製本費	17,210,000			17,210,000
支払手数料	10,234,000			10,234,000
消耗品費	2,218,600	1,400		2,220,000
修繕費	4,001,400	69,800		4,071,200
賃借料	2,360,837	1,723		2,362,560
保険料	964,465	13,192		977,657
交際費	1,134,000			1,134,000
通信運搬費	3,960,950	2,890		3,963,840
光熱水料費	7,098,820	5,180		7,104,000
委託費	7,004,761	163,553		7,168,314
減価償却費	25,674,372	994,821		26,669,193
雑費	14,359,561	9,639		14,369,200
租税公課	31,748,554	0		31,748,554
修繕引当金繰入額	4,503,500	174,500		4,678,000
退職給付費用	4,792,865	▲1,002		4,791,863
				0
管理費	0	0	7,955,457	7,955,457
役員報酬			2,026,400	2,026,400
給料手当			652,126	652,126
賞与			35,164	35,164
法定福利費			95,580	95,580
旅費交通費			480,762	480,762
通信運搬費			165,160	165,160
印刷製本費			0	0
支払手数料			0	0
消耗品費			80,000	80,000
修繕費			128,800	128,800
賃借料			98,440	98,440
保険料			24,343	24,343
交際費			126,000	126,000
支払利息			400,000	400,000
光熱水料費			296,000	296,000
委託費			473,686	473,686
減価償却費			1,835,716	1,835,716
雑費			550,800	550,800
租税公課			275,546	275,546
修繕引当金繰入額			322,000	322,000
退職給付費用			▲111,066	▲111,066
経常費用計	927,192,149	1,481,200	7,955,457	936,628,806
当期経常増減額	▲10,561,506	▲1,481,200	0	▲12,042,706
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
他会計振替額			0	0
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲10,561,506	▲1,481,200	0	▲12,042,706
一般正味財産期首残高	356,601,363	19,776,259	41,217,328	417,594,950
一般正味財産期末残高	346,039,857	18,295,059	41,217,328	405,552,244
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	346,039,857	18,295,059	41,217,328	405,552,244